

賀茂縣主だより

所人主会
行法団公
財団茂縣
賀茂族同

二つめは一月一日付で「賀茂県主同族会公式ホームページ」を開設したことであります。これにより会務

暑中のお見舞い

理事長 西池成晃

木々の緑も深まり盛夏を感じるようになって参りましたが皆様にはいかがお過ごしですかお見舞い申し上げます。

平素は同族会活動に深いご理解と格別のご高配を賜り心から厚くお礼を申し上げます。

本年の前半を振り返って見ますと

六月十四日には同族会会員須磨千穎教授が学者として最高の栄誉、学士院賞・恩賜賞を受賞されたことを先ず申し上げたい。同族会としてまた同族として極めて名誉なことであり真に喜ばしく改めてお祝い申し上げます。

なお十月二十四日の祖先祭には須磨教授に是非ご講演を頂きたく思っています。

会務に関する報告の一つめは賀茂社の各例祭（曲水の宴、競べ馬、葵祭）への伝統的ご奉仕ができたことであります。これも偏に賀茂の大神様のご加護でありますとともに会員の皆様のご支援によるものであり感謝申し上げます。

賀茂氏の伝統的文化、先祖の事績などの情報が会員の居住地の遠近に拘わらず共有できるようになったことであります。次代を担う若者の積極的活用をとくにお問い合わせします。

三つめは昨年の会員資格基準のみなおしにより既に女性（一定要件下の）の入会申込を受け付けました。非常に喜ばしいことと思っております。

四つめは五月二十九日に行なわれた日本中央競馬会設立五十周年記念行事の一つ「古式競馬の紹介」に参加し京都淀競馬場で日本最古の競馬として「賀茂の競べ馬」を披露しました。この催しへの参加は「賀茂の競べ馬」に対する認識の向上を図りたいとの賀茂社の意向に副うものでもありました。

同族会の諸活動は年初計画に沿いまた賀茂社とも連携をとりながら進めています。

本年後半には重要な恒例行事「系図曝涼」、「祖先祭」等スケジュールどおり行います。また八月十日から九月二十日の間京都国立博物館が主催する「神々の美の世界」展に同族会の所蔵する「重文賀茂神主惣系図」（内二巻）を出展いたします。

いずれもお誘い合わせのうえ多数ご参加下さいますことを願っています。

なお因みに、祖先祭前日の午後（十月二十三日（土））関係団体「賀茂文化研究会」（会長梅辻諄氏）のシンポジウムが近隣の京都産業大学ホールで行なわれ、賀茂の文化に関する研究発表も行なわれる予定です。

最後にあたり皆様のご健勝を切にお祈り申し上げます。

会員須磨教授の

学士院賞・恩賜賞受賞を祝して

須磨教授の直接的受賞理由は「賀茂別雷神社境内諸郷の復元的研究」の論著に拠るものであります。この研究は早くから学会で日本史研究全体に重大な影響を与える画期的研究と極めて高評価されてきたものです。

同教授は「清」の一流です。昭和四十二年七月付同族会刊「無題」4号にご尊父清宣様が「倅も賀茂社に関する研究をするようになった」と喜び語られていたことが思い出されま

す。今後もご健康で益々ご研究を進められますことを願いますとともに同族後輩の指導をもお願いいたしたく思います。



平成十六年五月五日

競馬会神事奉仕者

(敬称略)

第四列目

第三列目

第二列目

第一列目

左方乘尻(山本健太)	左方乘尻(馬場紘之信)	左方乘尻(岡本征晃)	左方乘尻(山本宗尚)	左方乘尻(山本浩矢)	左方乘尻(市 法明)	右方乘尻(山本智也)	右方乘尻(岡本氏和)	右方乘尻(山本幸大)	右方乘尻(市 聡顕)	右方乘尻(中大路竜直)
方(西池成晃)	方(堀内義晃)	方(藤木琢也)	方(松田一雄)	方(藤木秀昭)	方(山本武久)	方(馬場弘文)	方(市 芳明)	方(市 芳明)	方(市 芳明)	方(市 芳明)
左方肝煎(山本浩久)	左方催方(堀川 潤)	方(堀内義晃)	雑色	頓宮預(藤本文雄)	左方後見(市 忠顕)	左方後見(岡本正和)	右方後見(岡本清仁)	右方後見(岡本 修)	方(西池恒氏)	右方肝煎(山本雅浩)
扶 持(山本晃大)	催奉行(戸田保輝)	所司代(市 和顕)	左方念人(藤木 茂)	神 主(田中宮司)	右方念人(堀内保丸)	陰陽代(梅辻 諄)	目 代(藤木典直)	扶 持(山本信吾)	扶 持(山本信吾)	扶 持(山本信吾)

葵歌壇

冷泉家玉緒会所属

上賀茂 北大路 和子

寄山祝

九十九折り幾山河を越えし君は

千歳の春と秋を賞つらん

夏祓

みそきする奈良の小川の夕波に

忌串を立ててとか祓ふかな

鐘声送秋

さらぬたにこころ細きに秋送る

山寺の鐘いととわひしき

初水

冴えわたり比叡おろしの風寒み

初薄ら氷の閉つる池の面

埋火

かき起す埋火かこみ睦語り

外は木枯し吹きすさふ夜

葵神社頭に参りて二首

市 和 顕

のどかなる東遊びの声聞けば

皇國は民ぞやすけれ

馬さへも頭額づく賀茂祭

神のみいつはたかき貴き

賀茂競馬会の一瞥見

堀内保丸

—その一、左右補完の姿—

第九百十一回といわれる今年の競馬も、晴天のもと御奉仕の方を始め参観衆から馬匹に至りますまで、御霊の恩頼を沢に戴きましたことを心底より感謝しています。

思いますに、賀茂の競馬は人の手足さながらに、左方・右方に分かれて厳しく相対しつつも、御神意に込え奉るといふ一点で和合するという理を顕示しています。

考えてみればこれは大変なことで、見方によっては、時間軸抜きの一ゲル的弁証法、かの、正・反・合の止揚(アウフヘーベン)にもなぞらえ得べく、御神意に素直な祖先の業の美事さを感じ入りますとともに翻つて我が身自身の宗教的スタンドポイントとも重複するの感がしきりです。

そもそも、「賀茂同族」を出自とし、なおかつ、理科学徒であった身が、こともあろうに終戦直後キリスト教の研究に入りましたとき、同族方の中には定めし奇異に思し召しの向もあられたとか、と、今なお思います。

が、当時、日米対決の真因に関し、マスコミに跳ねる論者のそれはそれと

して、私はその深因を、多神教国と一神教国の対立に読み、来世紀の人々のためにもこの問題をゆるがせにすべきではないと判じ、キリスト教と神道、それも古神道との比較論を究める決意を固めた次第です。それもしかも単なる概念のそれだけでなく、信仰的体験的全領域においてのそれであります。もちろん、この種前人未踏の冒険に身を挺し得ましたのも、「ヒロシマ」のショックが与つて力あるものであったのも否めません。

さて、世間の常識からみれば、一神教と多神教は相反概念で氷炭相容れぬ態に思われますが、詳しく調べますと新約聖書ヨハネ伝十章三十四節の記事「あなたがたの律法に『わたしは言う、あなたがたは神々である』と書いてあるではないか、神の言葉を託された人々が神といわれておるとすれば、(そして聖書はすたることがあり得ない)……」

に、あるように、キリスト教は元より、あのユダヤ教さえも、「神々」という複数概念を許容しています。

かたや、神道の方では古事記の巻頭、「天地はじめのとき、高天原になりませる神の御名は、あまのみななぬしのかみ」と宣言し、宇宙的大中心たる一神の

厳存を告白しています。

これを要するに一神・多神の別は絶対でなく、時・所・位に依じた優先順位に過ぎません。

話を現代に戻しまして、現行のイラク戦争でも、キリスト教国(米国)とイスラム教国(聖戦派)の戦いだとみる向もあります。一神対一神、一神対多神等の戦いを将来的に予防するには、どうしても、一神と多神をば全一神観の中に止揚(アウフヘーベン)しない限り不可能だと思われまます。

この時に当り、賀茂競馬御神業に顕示される補完的一体化の秘事に感謝の念一入のものがあります。

—その二、念人亀居の拝のこと—

往年来、僭越にも念人の大役を拝命致しまして以来、秘かに自問して参りましたことの一つに階下奉幣の砌、四度に亘ります亀居拝礼の秘儀があります。

もつとも、神道の奥儀はこと、あげ、に抛らずして誠心拝礼裡の靈断に待つ事とは承知しつつも、「汝は如何対処するや」と問われますとき、ここに一片の心象を披瀝してその責めに応えたく思います。

さて、こと私に関します限り、最初の亀居拝は御神前での出仕報告。次回の亀居拝は御神名奉唱しつつ、

(「ねぎ」としてのお祝詞が入り)

三度目の亀居拝には御神事の無事有終最後の亀居拝には当御神業そもその濫觴たる天下の平安和楽請願。

と、させて頂いています。大方のご叱正ご指導をお待ち致しております。

(註)亀居拝は亀の姿のような拝礼

歴史勉強チームからのお知らせ

梅 辻 諄

昨年と同様に今年も同族会の主催ならびに協賛による行事を行います。

(一)トヨタ財団助成 特定課題「近代とくらしの再発見」の助成対象者による報告会(市民研究サミット)

日時 十月二十二日(金)十四時

場所 京都ガーデンパレス

主催 トヨタ財団、賀茂文化研究会

既にお知らせした様に、歴史勉強チームを中心に賀茂の各団体が加わって結成した賀茂文化研究会の第一回目の成果報告を日本各地の諸団体の報告と共にを行います。その成果の一部は「賀茂文化」第一号として出版しましたが、この集会においても、より明快な形で、われわれの誇りとする伝統文化を示す考えです。市民サミットなので関係者だけでなく、同族会会員の皆様の来聴を歓迎します。なお、「賀茂文化」第一号は会員の皆様にもお送りします。

(二)第二回上賀茂シンポジウム

「上賀茂の文化を語る」

日時 十月二十三日(土)十三時

場所 京都産業大学神山ホール

(上賀茂神社前よりシャトルバスあり)

主催 賀茂文化研究会

京都産業大学

賀茂県主同族会

予定 講演「紅葉音頭について」

パネルディスカッション

「伝統文化の保存について」

紅葉音頭実演と解説 等

昨年と同様に伝統芸能をとりあげ、今後どのように継承発展させるかを考えます。同族会会員の皆様が多数御参加下さいますようお願いいたします。

(三)有形文化財 賀茂社家特別公開

日時 十一月十三日(日)

午前十時より午後四時まで

主催 賀茂文化研究会

京都産業大学勝矢ゼミ

協賛 賀茂県主同族会

この公開の詳細は現在計画中です。

これらの行事の詳細は九月以降、ポスターや同族会のホームページでお知らせします。

「みたらしのうたかた」原稿募集

歴史勉強チームの機関誌「みたらしのうたかた」第四号の原稿をお送り下さ

い。内容は賀茂に関することなら何でも結構で、このチームに参加されていない会員の方も是非、原稿をお寄せ下さい。切手は手書き原稿の場合、九月二十日とします。ワープロ原稿の場合はA4版でプリントして頂き、そのまま写真製版をします。切手は九月末日とします。形式は自由です。原稿は梅辻宛にお送り下さい。

「歴史勉強会」へのお誘い

現在、四、五月の多忙な月を除いて毎月一回、土曜日午後「歴史勉強会」を開催しています。現在、「賀茂注進雑記」の積注、現代語訳以外に特定のテーマを設定していません。自由な話題提供の形をとっています。賀茂の古い歴史に興味をお持ちの方や伝統的な行事の伝承を調べておられる方は是非御参加下さいまして、話題を提供して頂くことを期待しています。特に若い方の加入をお待ちしています。

会務報告

副理事長 北大路 元 顯

◎第三十三回理事会(出席十二名)

平成十五年九月二十三日開催

一、祖先祭斉行の件

本年も十月二十六日(日)実施するも、

祭典終了後賀茂別雷神社田中安比呂新宮司の紹介と挨拶を受ける事とし、それ以外は昨年同様に計画し、全員の賛成を得た。

二、同族会員の資格基準運用の件

会員資格基準運用準則につき一部修正案を論議の上全員の賛成を得た。

(註)資格基準及運用準則の全文は前十三号に掲載しております。

三、慶弔見舞金規程の件

財源を考慮し従来弔慰のみの規程を適用範囲の拡大、弔慰方法につき議論の結果全員の賛成を得た。

(註)弔慰規程の全文は前十三号に掲載しております。

四、中央競馬会記念行事参加の件

上賀茂神社より行事参加の要請があり、検討の結果全員の賛成を得た。

(註)日本中央競馬会五十周年事業として実施されるもので五月二十九日京都競馬場に於いて実施された。

五、報告事項

(一) IT事業の進捗状況

(二) 家系図作成状況

等が報告された。

◎第三十回評議員会(出席十八名)

平成十五年九月二十三日開催

一、祖先祭斉行

二、同族会員の資格基準運用の件

三、慶弔見舞金規程の件

三、慶弔見舞金規程の件

会員ご不幸の場合弔電のみであったのを榊代として一万円を送る。

(註)榊代一万円は財政上の問題から理事会に於いて五千円となった。

四、中央競馬会記念行事参加の件

五、報告事項

(一) IT事業

(二) 家系図作成状況

について報告された。

(註)紙面の都合上評議員会議事録は各議案ともテーマのみとなりましたお許下さい。

平成16年下半期会議日程(於 神社)

1. 評議員会 第34回 平成16年10月3日(日)	6. トヨタ財団助成「近代とくらしの再発見」(市民サミット) 10月22日(金) 於 京都ガーデンパレス
2. 理事会 第37回 平成16年10月17日(日)	7. 第2回上賀茂シンポジウム 「上賀茂の文化を語る」 10月23日(土) 於 京都産業大学神山ホール
3. 合同事務局会議 45回 7月18日(日) 46回 9月12日(日) 47回 11月14日(日) 48回 12月12日(日)	上記6及び7については別掲「歴史勉強チームからのお知らせ」をご覧ください。
上記各会議共開催時間は13:30です。	
4. 系図展観 8月1日(日)雨天中止	
5. 祖先祭 10月24日(日)	

編集後記

六月に台風が二つも我が領土に上陸したのは気象台で観測を始めて初めての事とか、台風通過在住の皆さんには被害がなかったでしょうか。原稿不足の昨今です。広報チームの力不足です。申し訳ありません。